

## ⑨「委員会」の位置づけと構成について

アーモンドの会の委員はほとんどボランティアです。牧師が四人、信徒が四人、残念ながら今は女性の委員がいません。これは今後の課題です。(二〇〇五年度から女性委員が加わりました。)委員も何らかの障がいを負って居る人が何人かいます。障がい者委員からの発言は、委員会の中では重要な位置を持っています。いわゆる健全者委員の第三者的な意見がしばしば批判され修正されます。常任の委員のほかに拡大委員数人(いずれも何らかの障がいを持つ方々です。)が居て、年に一回拡大委員会で学習会をいたします。

この委員会は前述したように、埼玉地区の特設委員会で(或いは自主活動団体という位置付けもあるので)すが)、地区委員から一人が出向してきます。組織的には地区の委員会であり、その活動は埼玉地区の活動です。地区は地区の伝道会計からかなりの予算を負担しています。埼玉地区の活動ですが、会の案内は関東教区の全教会・伝道所に対して送られます。教区として位置づけよ、というメッセージですが、まだ教区的な広がりには十分行き渡っていません。これも今後の課題です。

委員会は毎年一月末に一泊で年間活動の評価と自己検討、次年度の働きについて学びをします。会の企画が、ときに本来のモチベーションから外れていないかという自己検討が主な話し合いの内容になります。



